



2027年1月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年9月8日

上場会社名 株式会社きんえい

上場取引所 東

コード番号 9636 URL <https://corporate.kin-ei.co.jp>

代表者（役職名）取締役社長（氏名）作田 憲彦

問合せ先責任者（役職名）執行役員経理部長（氏名）森本 清士（TEL）06(6632)4553

半期報告書提出予定日 2026年9月9日 配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年1月期第2四半期（中間期）の業績（2026年2月1日～2026年7月31日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年1月期中間期	1,805	△3.8	124	△30.2	132	△26.7	82	△35.6
2026年1月期中間期	1,878	4.6	178	5.5	181	5.8	128	10.0

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年1月期中間期	29.74	—
2026年1月期中間期	46.20	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年1月期中間期	5,847	2,819	48.2
2026年1月期	6,021	2,759	45.8

（参考）自己資本 2027年1月期中間期 2,819百万円 2026年1月期 2,759百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年1月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2027年1月期	—	0.00	—	—	—
2027年1月期（予想）	—	—	—	10.00	10.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年1月期の業績予想（2026年2月1日～2027年1月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,770	△0.0	265	△12.1	275	△11.7	180	△10.1	64.57

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2027年1月期中間期	2,821,000株	2026年1月期	2,821,000株
2027年1月期中間期	33,116株	2026年1月期	33,034株
2027年1月期中間期	2,787,931株	2026年1月期中間期	2,788,015株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（中間期）

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

文中における将来に関する事項は、当中間会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

当中間会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、個人消費や設備投資に持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。今後の見通しにつきましては、国際情勢の不安定化や物価の上昇、金利の変動等の影響などにより先行き不透明な状況が続くものと思われま

す。この間、当社におきましては、事業全般に亘って顧客満足度の高いサービスの提供に努めるとともに、部門別業績管理のさらなる徹底を図りましたが、売上高は、前年同期に比較して3.8%減の1,805,908千円となりました。さらに、諸経費全般に亘って鋭意抑制に努めました結果、営業利益は30.2%減の124,571千円、経常利益は26.7%減の132,765千円、中間純利益は35.6%減の82,905千円となりました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業部門におきましては、「あべのアポロシネマ」において、“劇場版『名探偵コナン ハイウェイの墮天使』”“トイ・ストーリー5”“ザ・スーパーマリオギャラクシー・ムービー”“映画『Michael／マイケル』”“ほどなく、お別れです”“プラダを着た悪魔2”“映画ドラえもん 新・のび太の海底鬼岩城”“映画ちいかわ 人魚の島のひみつ”“キングダム 魂の決戦”“映画『教場 Requiem』”などの作品を上映して観客誘致に努めました。また、「あべのハルカス」「あべのキューズモール」「天王寺ミオ」などの周辺商業施設と連携したタイアップイベントを積極的に開催し、販売促進を図りました。さらに、「スクリーン1」の音響機器リニューアル工事の完成に合わせ、お客様によるネーミング投票キャンペーンを実施し、新音響システムを「A-HIBIKI(え〜ひびき)」と命名しました。また、従業員の接遇力を高めるための教育に注力するなど、より快適にご鑑賞いただけるように努めました。娯楽場事業におきましては、「あべのアポロシネマ」と一体となった集客を一層推進いたしました。しかしながら、前年度に大ヒットした“国宝”“劇場版『鬼滅の刃』無限城編 第一章 猗窩座再来”の反動減の影響が大きく、部門全体の収入合計は783,942千円となり、営業原価控除後では、103,276千円の営業利益となりました。

不動産事業部門におきましては、「きんえいアポロビル」において、空調設備整備や監視カメラ増設・更新、大型テナントの下期入居に伴う賃貸床及び共用部区画整備等を実施し、ビルの機能及び安全性の維持・向上、美装化を図りました。また、「あべのルシアス」において、排水設備、電気室設備、電力メーター設備及び中央監視設備の更新等に計画的に取り組み、より安全で快適なビルづくりを推進しました。そのうえで、空室部分への後継テナント誘致や賃貸借契約更新時等の賃料改定に注力するなど賃貸収入の確保に努めた

(2) 当中間期の財政状態の概況

① 資産、負債及び純資産の分析

当中間会計期間末における総資産は、短期貸付金の減少等により前期末に比較して174,033千円減少し、5,847,954千円となりました。

負債は、設備関係未払金の減少等により前期末に比較して234,190千円減少し、3,028,263千円となりました。

また、純資産は、中間純利益の計上により利益剰余金が増加したため、前期末に比較して60,156千円増加し、2,819,691千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動による収入が投資活動及び財務活動による支出を下回ったため、前事業年度末に比較して48,153千円減少し、86,631千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動で得られた資金は、税引前中間純利益の計上及び減価償却費等により95,589千円となりました。前年同期と比較しますと、その他の流動負債の減少等により134,575千円収入額が減少しております。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動で使用了資金は、固定資産の取得等により85,519千円となりました。前年同期と比較しますと、資産除去債務の履行による支出等により20,398千円支出額が増加しております。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動で使用了資金は、配当金の支払等により58,223千円となりました。前年同期と比較しますと、108,669千円支出額が減少しております。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後につきましては、シネマ・アミューズメント事業部門では、あべの・天王寺エリア唯一の映画館「あべのアポロシネマ」への一層の集客を目指し、魅力ある作品の上映に努めるとともに、安心・快適な環境で映画を楽しんでいただけるように計画的な設備等の更新に取り組んでまいります。さらに、周辺商業施設との共同販売促進策を積極的に推進し、また、簡単・便利な「チケット予約システム」や映画会員制度「アポロシネマメンバーズ」を積極的にアピールし、集客に努めてまいります。

不動産事業部門におきましては、テナント入居率の維持・向上による賃貸収入の確保を図るのとはもとより、引き続き設備更新・改良工事等を計画的に進めるなど、ビルのさらなる機能向上を図るとともに、省エネルギー化にも十分に配慮し、より安全で快適な環境づくりに努めてまいります。

以上により、今後とも、安定した経営基盤の確立並びに事業の発展に格段の努力を傾けてまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

通期の予想につきましては、売上高は3,770百万円（前期比0.0%減）、営業利益は265百万円（前期比12.1%減）、経常利益は275百万円（前期比11.7%減）、当期純利益は180百万円（前期比10.1%減）となる見込みであります。なお、2026年3月17日に「2026年1月期決算短信（非連結）」にて公表した業績予想から、売上高を130百万円、営業利益および経常利益を35百万円、当期純利益を30百万円それぞれ増額しております。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2026年1月31日)	当中間会計期間 (2026年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	134,784	86,631
売掛金及び契約資産	113,436	122,718
商品	4,973	4,678
短期貸付金	698,938	569,772
その他	55,606	69,680
流動資産合計	1,007,740	853,482
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,714,670	2,672,152
機械及び装置(純額)	88,646	92,130
工具、器具及び備品(純額)	101,669	93,372
土地	1,123,748	1,123,748
建設仮勘定	3,790	4,927
有形固定資産合計	4,032,525	3,986,332
無形固定資産	2,853	2,667
投資その他の資産		
差入保証金	899,138	918,208
その他	79,731	87,264
投資その他の資産合計	978,869	1,005,473
固定資産合計	5,014,248	4,994,472
資産合計	6,021,988	5,847,954
負債の部		
流動負債		
買掛金	127,486	159,035
短期借入金	312,500	287,500
1年内返済予定の長期借入金	10,000	7,500
未払法人税等	52,952	30,836
賞与引当金	10,800	10,700
資産除去債務	38,189	-
その他	710,500	456,314
流動負債合計	1,262,429	951,886
固定負債		
長期借入金	2,500	-
退職給付引当金	69,088	70,948
受入保証金	1,568,146	1,629,981
資産除去債務	346,909	348,070
その他	13,380	27,376
固定負債合計	2,000,024	2,076,376
負債合計	3,262,453	3,028,263

(単位:千円)

	前事業年度 (2026年1月31日)	当中間会計期間 (2026年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	2,264,306	2,319,331
自己株式	△113,023	△113,366
株主資本合計	2,739,638	2,794,320
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	19,895	25,370
評価・換算差額等合計	19,895	25,370
純資産合計	2,759,534	2,819,691
負債純資産合計	6,021,988	5,847,954

(2) 中間損益計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2025年2月1日 至 2025年7月31日)	当中間会計期間 (自 2026年2月1日 至 2026年7月31日)
売上高	1,878,021	1,805,908
営業原価	1,524,319	1,498,340
営業総利益	353,701	307,568
一般管理費	175,303	182,996
営業利益	178,397	124,571
営業外収益		
受取利息	2,637	4,369
受取配当金	511	607
違約金収入	-	5,346
保険返戻金	2,039	-
雑収入	92	757
営業外収益合計	5,279	11,081
営業外費用		
支払利息	2,517	2,720
雑支出	6	166
営業外費用合計	2,523	2,886
経常利益	181,154	132,765
特別損失		
固定資産除却損	8,094	12,364
特別損失合計	8,094	12,364
税引前中間純利益	173,059	120,401
法人税、住民税及び事業税	55,254	26,394
法人税等調整額	△10,998	11,101
法人税等合計	44,256	37,496
中間純利益	128,803	82,905

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間会計期間 (自 2025年2月1日 至 2025年7月31日)	当中間会計期間 (自 2026年2月1日 至 2026年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	173,059	120,401
減価償却費	144,564	136,859
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△730	-
賞与引当金の増減額(△は減少)	△600	△100
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△2,953	1,860
受取利息及び受取配当金	△3,148	△4,977
支払利息	2,517	2,720
固定資産除却損	8,094	12,364
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	△29,983	△9,282
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△11,104	△14,051
仕入債務の増減額(△は減少)	38,094	31,548
未払金の増減額(△は減少)	△71,408	△85,145
その他の流動負債の増減額(△は減少)	24,245	△54,247
その他	7,946	2,733
小計	278,593	140,683
利息及び配当金の受取額	3,201	5,083
利息の支払額	△2,520	△2,849
法人税等の支払額	△49,110	△47,328
営業活動によるキャッシュ・フロー	230,165	95,589
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△192,680	△180,124
短期貸付金の増減額(△は増加)	115,462	129,166
差入保証金の増減額(△は増加)	△9,026	△19,069
受入保証金の増減額(△は減少)	43,088	52,425
資産除去債務の履行による支出	-	△39,812
その他	△21,965	△28,103
投資活動によるキャッシュ・フロー	△65,121	△85,519
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	87,500	△25,000
長期借入れによる収入	20,000	-
長期借入金の返済による支出	△246,250	△5,000
配当金の支払額	△27,880	△27,879
その他	△262	△343
財務活動によるキャッシュ・フロー	△166,893	△58,223
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,849	△48,153
現金及び現金同等物の期首残高	87,080	134,784
現金及び現金同等物の中間期末残高	85,231	86,631

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間(2025年2月1日から2025年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
劇場収入	759,657	—	759,657	—	759,657
ビル共益費等収入	—	202,630	202,630	—	202,630
娯楽場及びその他事業収入	81,750	13,004	94,755	—	94,755
顧客との契約から生じる収益	841,407	215,635	1,057,042	—	1,057,042
その他の収益	—	820,978	820,978	—	820,978
外部顧客への売上高	841,407	1,036,613	1,878,021	—	1,878,021
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	841,407	1,036,613	1,878,021	—	1,878,021
セグメント利益	113,962	239,739	353,701	△175,303	178,397

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当中間会計期間(2026年2月1日から2026年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
劇場収入	720,222	—	720,222	—	720,222
ビル共益費等収入	—	185,592	185,592	—	185,592
娯楽場及びその他事業収入	63,719	14,441	78,160	—	78,160
顧客との契約から生じる収益	783,942	200,033	983,975	—	983,975
その他の収益	—	821,932	821,932	—	821,932
外部顧客への売上高	783,942	1,021,966	1,805,908	—	1,805,908
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	783,942	1,021,966	1,805,908	—	1,805,908
セグメント利益	103,276	204,291	307,568	△182,996	124,571

(注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益は中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。